

総合的な学習の時間 指導案

尾道市立長江中学校

指導者 瀬元 翔・末廣 麻由子

- 1 日 時 令和3年12月15日(水) 5時限目
- 2 場 所 1年1組教室・1年2組教室
- 3 学年・学級 1年1組(男子19名, 女子15名 計34名)
自閉症・情緒障害特別支援学級(ひまわり学級, 女子1名)
1年2組(男子19名, 女子16名 計35名)
- 4 単元名 『遊んで! 学んで! 未来につなごう! 目指せ! SDGs マスター』
～SDGsの視点から身の回りの社会を知り, カルタ作りを通して解決に向けて一歩を踏み出そう～

5 単元について

(1) 単元観

本単元は, 3年間を通して実生活の「答えのない問い(答えが1つではない問い)」に対して, 主体的かつ協働的に, より最適な方法でより最適な形にしていく力を養うための導入単元であり, 知識基盤と学習基盤を養うことを目的とする。

主体的な姿は, 自ら考えようとし, 自分なりのその時点での最適解を持ち, 更新し続けている姿を目指す。また, 協働的な姿は, 課題解決に向けて集団でお互いの意見をすりあわせながら最適解を導き出していくだけではなく, 課題解決に際して相手意識を持ち取り組む姿を目指している。

実生活の答えが1つではない問いの解決に向けた問題解決の視点として, 現代社会が抱える問題であるSDGsを取り上げ, SDGsの視点から身の回りの社会の知識基盤を作る。その後, 自らの知識に留めるだけでなく, 相手意識を持ち, 協働的な活動を通して最適解を導き出す学習基盤を作る。

(2) 生徒観

長江中学校の生徒の特徴として, 答えのない問いに対して意欲的に取り組めないだけでなく, 他者と意見をすりあわせながら, 解を導き出すことを不得意としている実態が見られる。

1学期に「SDGsを知ろう!」に取り組んだ。SDGsの各項目を2人1組で調べ学習を行い, 用紙にまとめたものを交流しおおまかな知識を習得している。その後, 本単元の実施にあたって該当学年に事前調査を行ったところ, 次の結果が得られた。

質 問	肯定的回答
①SDGs(課題)に対してある程度理解している	58.7%
②SDGs(解決方法・取り組み)に対してある程度理解している	51.6%
③SDGs(課題)を自分で直接的または間接的に解決に向けて取り組んでいる	30.6%
④SDGs(課題)を集団で直接的または間接的に解決に向けて取り組んでいる	38.7%
⑤検索ワードを工夫して, 調べたい情報に辿り着くことができる	66.7%
⑥掲載されている情報を目的に応じて吟味して, 取捨選択できる	49.2%
⑦取捨選択した情報を, 伝える相手に応じて表現方法を工夫して伝えることができる	39.7%

SDGs が取り上げている社会問題やその解決方法について自分なりに理解している生徒は約半数、実際に実行に移すことができている生徒は半数以下であった。このことからSDGs に対してある程度の知識を持つことはできているものの、実生活の中で意識したり、行動に移したりはできていないため表面的な理解に留まっていると考えられる。さらに、約6割の生徒が情報を検索できていると感じているものの、表面上の検索に留まっており、内容を追求するための検索スキルには課題を感じる。また、情報の信憑性を確認せず、鵜呑みにしている場面も見られる。検索した情報を取捨選択し、表現方法を工夫して相手に伝える力がついていないと感じている生徒は4割以下であり、情報の内容や表現を工夫して伝えることに対して、主観的評価で満足しており、客観的評価を受け入れることができていない実態もある。

(3) 指導観

PBLの学習の流れを取り入れ、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習過程をふまえた指導に留意する。しかしながら、答えのない問いを扱う導入單元であることから扱う課題は教員が誘導的に設定する。また、調べ学習のみに留まらず、内容や表現形式が多様で答えが1つではないもの作成において、各学習過程で個人思考を重ねて自ら最適解を考え続ける場面と集団思考で互いの考えに指摘・アドバイス・共感し、意見をすりあわせながら最適解を導き出す場面を設ける。

「課題の設定」の場面では、自分たちがSDGs について知るだけでなく、相手意識を持って情報を吟味することができ、内容や表現形式が多様であることを踏まえて、小学生のためのSDGs カルタの作成を設定した。グループでカルタを1セット作成し、最終的にそのカルタを小学生に実施してもらう。

「情報の収集」の場面では、Chromebookを用いてインターネットでSDGs に関する情報を集める。ネットに書かれている情報をそのまま鵜呑みにする生徒の実態を踏まえ、個人で調べた情報を交流する場面を設け、情報の信憑性を吟味する場面を設ける。

「整理・分析」の場面では、仮カルタを作成し、他のグループが作成した物を実施する中で、小学生にとっても、自分達にとっても学びがある内容か、小学生に寄り添った言葉が使っているか、具体的に実行できることが書かれているかなどの視点で改善案を導き出す。また、同じクラスだけでなく他クラスや小学校の先生方からもアドバイスをいただきながら行っていき、より多くの人から評価を受ける場面を設定する。これにより、自己の主観的評価で満足するのではなく、相手意識や他者からの客観的評価をより一層意識することができ、多くのアドバイスを「整理・分析」することで自分達なりの最適解を導き出す力も養っていきたいと考える。

「まとめ・表現」の場面では、これまで得た多くのアドバイスを生かしながら、小学生に寄り添ったイラストであるか、文章表現（言葉の選び方や漢字の使い方など）になっているかを吟味し清書に入る。この時、この単元の最初に個人や班で作成したワークシートを振り返り、自分達の変容を実感させ、SDGs への理解や最適解を求め粘り強く取り組む中で身についた力を共有していく。

6 単元の目標

【知識・技能】

- ・ 検索ワードを工夫して、多くの角度からSDGs の情報を集め、適切に取捨選択することができている。

【思考・判断・表現】

- ・調べた情報を相手や目的に応じて表現を工夫してカルタを作ることができる。
- ・他者のカルタがより良いものになるよう、小学生の立場になって具体的なアドバイスをすることができている。

【主体的に取り組む態度】

- ・意欲的に様々な角度から収集し、目的を意識して修正・改善を繰り返している。
- ・班活動で積極的に意見交流し、協働してよりよいカルタにしようと修正・改善を繰り返しながら粘り強く最適解を導き出そうとしている。
- ・他者が実践する姿を通して、自分達の活動を客観的に振り返り、分析し、今後に生かそうとしている。

本校で育成したい資質・能力のうち、本単元で特に育成を目指すのは、「主体性」、「協働性」である。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①検索ワードを工夫して、多くの角度からSDGsの情報を集め、適切に取捨選択している。	①調べた情報を相手や目的に応じて表現を工夫してカルタを作っている。 ②他者のカルタがより良いものになるよう、小学生の立場になって具体的なアドバイスをしている。	①意欲的に様々な角度から収集し、目的を意識して修正・改善を繰り返している。 ②班活動で積極的に意見交流し、協働してよりよいカルタにしようと修正・改善を繰り返しながら粘り強く最適解を導き出そうとしている。 ③他者が実践する姿を通して、自分達の活動を客観的に振り返り、分析し、今後に生かそうとしている。

8 指導と評価の計画（全11時間） 本時5 / 11

次数	○学習内容 【時数】 ・学習活動	評 価 規 準			(評価方法)
		知	思	態	
第一次	○小学生にプレゼントするSDGsカルタを作ろう 【全4時間】				
	・個人でカルタを作る。【2時間】	①	①	① ②	(ワークシート・行動観察)
	・個人で作ったカルタを班で交流して目的に沿っているかアドバイスをし合う。 【2時間】		②	① ②	(カルタ・行動観察)

課題の設定・情報の収集

第二次	○クラス間交流をして内容を深めていこう 【全2時間 ◆本時1/2】			
	・他クラスで作ったカルタを实践する。 ・クラス間で交流して目的に沿っているかアドバイスを記入する。 【1時間】		②	(ワークシート・行動観察)
	・各班で再度、最適解になっているか吟味し、カルタに修正・改善を加える。 【1時間】		① ②	(カルタ・行動観察)
第三次	○小学校の先生からアドバイスをいただき、さらに良いカルタにしていこう 【全3時間】			
	・小学生の先生方からいただいたアドバイスを交流して、各班で再度、最適解になっているか吟味し、カルタに修正・改善を加える修正・改善をする。 【1時間】		① ②	(ワークシート・行動観察)
	・カルタの清書をする。 【2時間】		①	(カルタ・行動観察)
第四次	○小学生に作成したカルタを实践してもらおう 【全2時間】			
	・小学生がカルタを实践している場面を見て、自分達の成果を分析する。 【1時間】		③	(ワークシート・行動観察)
	・成果や小学生からの感想を交流し、目的を達成することができたか振り返り、学びをまとめる。 【2時間】		③	(ワークシート・行動観察)

整理・分析①

整理・分析②

まとめ・表現

9 本時の展開

(1) 本時の目標

各クラスのカルタを实践してみることを通して、目的に合ったカルタに近づけるよう改善していくことができる。

(2) 本時の準備物

・ワークシート ・各班で作成した仮カルタ ・テレビ ・パソコン

(3) 本時の主体的・協働的な学びを促す手立て

クラス内での交流ではなく、他クラスと交流する活動を取り入れる。【見所】学習活動5・6

(4) 本時の評価基準

十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	努力を要する生徒への手立て (C)
○他者のカルタを小学生の視点から評価し、改善案を提案する中で、自分達のカルタについても新たな気づきを発見することができる。	○他者のカルタを小学生の視点から評価し、改善案を提案できる。	○問題点を共に見つけ、小学生の視点で何が問題なのかを引き出す。

(5) 本時の学習展開

	学習活動	○指導上の留意点 ◆努力を要する生徒への支援	☆評価規準（評価方法）
導入	1 小学生からのビデオメッセージを視聴する。	○相手意識を高めるために、対象となる小学生の説明をしながら動画を再生する。	
	2 学習目標を確認し、振り返り用紙に記入する。	自分たちのカルタをより最適なものにできる。	
	3 互いのクラスのカルタを交換して実践することを確認する。	各クラスのカルタを実践してみた気づきを伝え合い、改善していこう。	
展開	4 交換したカルタを実践する。	○小学生の気持ちになって実践し、より具体的なアドバイスができるよう、アドバイスの視点を提示する。	
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生にとって分かりにくい言葉はないだろうか。 ・小学生にとってもう少し分かりやすい表現はないだろうか。 ・小学生にとって学びのあるカルタになっているだろうか。 ・抽象的すぎないだろうか。 ・小学生にとって言葉とイラストが一致したものになっているだろうか。 </div>	
	5 アドバイスシートに気づき（肯定的評価、改善案）を記入する。	○今後の意欲を高めるために、アドバイスだけではなく、参考にしたいと思った点や素敵だと思った点等も記述するよう促す。	☆他者のカルタを小学生の視点から評価し、改善案を提案できる（ワークシート・行動観察）
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>予想される生徒の気づき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生がもっと分かりやすいものに例えた方が良いと思う。 ・小学生が具体的にどんな行動をしたら良いかが書いてある方が学びに繋がると思う。 ・もっと日常生活に関係していることにした方が良いと思う。 ・具体的で分かりやすく参考になった。 ・イラストも小学生にとって親しみやすく印象的なので良いと思った。 </div>	
	6 アドバイスをもとに、修正・改善をしていく。	○アドバイスを鵜呑みにするだけでなく、アドバイスと自分達の意図のすり合わせを行い、最適解を求めるよう促す。	

ま と め	7 振り返りを記入する。	○より具体的な振り返りができるように アドバイスを受けて変容したカルタを 紹介する。	
-------------	--------------	--	--

(6) 板書計画

めあて：各クラスのカルタを実践してみることを通して、目的に合ったカルタに近づけるよう改善して
てくことができる。

SDGsの内容を自分達の生活と繋げて考える力をつけよう

「対象」を考えたり、発想したり想像したりする力をつけよう

発信するというゴールをもつことによって、様々な情報を取捨選択する力をつけよう

～本時の流れ～

- ① 1組・2組のカルタを交換し、実践してみる
- ② 実践で気付いたことや、アドバイスしたいことをシートに記入する
- ③ 1組・2組でシートを交換し、修正・改善を考える
- ④ さらにより良いカルタを目指して……